



## 願いをこめて どんど焼き お焚き上げ

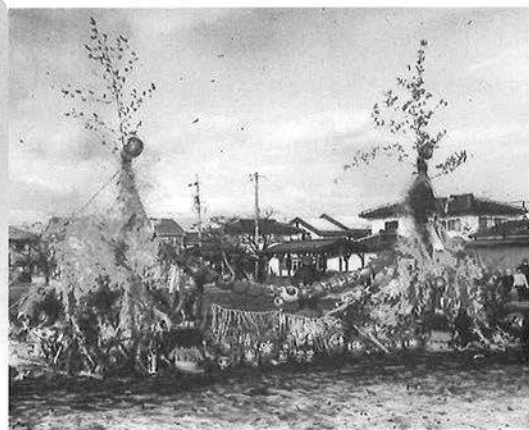
平林区  
(1月9日)



毎年恒例のどんど焼きが今年も平林の安達神社の境内で行われました。区・氏子・育成会の代表が道祖神・安達神社にお参りし、代表者が「たいまつ」から道祖神に点火し始まりました。

(平林区広報通信員)

南高田区  
(1月9日)



「さくら公園」でどんど焼きが行われました。正月飾り、前年のお札などが積み上げられ、住民が見守る中点火。澄みきった空に勢いよく炎が上がり、無病息災、1日も早い新型コロナウイルスの終息を祈りました。(南高田区広報通信員)

五分一區  
(1月9日)



1月9日 オミクロン株感染拡大のなか予定通り、どんど焼きを実施しました。小学校校庭を使用のため後掃除があるので午前の点火。燃え盛る炎。疫病退散・無病息災を願いつつ無事終了しました。(五分一區広報通信員)

西和田区  
(1月9日)



子どもたちのお祭りであり、地域住民とのつながり形成ともなるどんど焼きが開催されました。新型コロナウイルスの急拡大もあり、規模を縮小しての実施でしたが大切な行事として継続したい催しでした。(西和田区広報通信員)



## 川端区 (1月9日)



晴天のもと、新型コロナウイルス拡散防止策を講じて「どんど焼き」が行われました。区民の一年間の災いを

払い、豊作や商売繁盛、家内安全、無病息災、子孫繁栄を願い歳神様を見送りました。

(川端区通信員)

## 中村区 (1月10日)



地区のみなさん50名ほどが見守る中、五穀豊穡、家内安全、無病息災、学業成就などそれぞれの願いを込めて子

どもの代表らが点火しました。炎は、晴天の空高く舞い上がりました。今年もよい年でありませうように。

(中村区広報通信員)

## 東和田区 (1月9日)



(東和田区広報通信員)

## 上高田区 (1月9日)



毎年恒例のどんど焼きが開催されました。達磨・しめ飾り・門松・書初めなどの縁起物を積み上げた櫓に点火されると、新春の空にめでたき炎煙がたちのぼり、参拝者揃って今年一年

の家内安全・無病息災を願いました。

(上高田区広報通信員)

## 北条区 (1月9日)



守田廻神社境内でどんど焼きが行われました。コロナ禍のため参加者を公民館役員、育成会役員、6年生保護者、5・6年生のみに限定しての実施。参加者からは「もちを焼いたり、飲食ができなくて寂しい」との声が聞かれました。

(北条区広報通信員)

## 荒屋区 (1月8日)



荒屋区のどんど焼きが1月8日に2年ぶりに行われました。

残り火で餅を焼く家族が見られました。

(荒屋区広報通信員)

西尾張部区  
(1月9日)



コロナ禍で2年続きの中止となったどんど焼きのかわりに区、育成会、公民館の役員に加え消防団の立会いの下、お焚き上げを行いました。区内の安寧、区民の健康、コロナの収束を願いました。(西尾張部区広報通信員)

南長池区 (1月9日)



(南長池区広報通信員)

## “笑い文字”の書き方講座

令和3年12月20日(月)古牧公民館で、講師に「笑い文字普及協会」の上級講師北村たづる先生をお招きし、子育て支援部員参加の研修会として「笑い文字」の書き方講座を開催しました。

「笑い文字」とは、白い紙に黒と朱の筆ペンを使い、満面の笑顔と文字を描き、「感謝」と「喜び」を伝えるコミュニケーションツールです。「書いて半分、渡して完成！」というのがコンセプトだそうです。

今回は、「ありがとう」の文字の中に笑顔を



どのように描けば良いか、用紙の大きさに合わせた基本的な描き方を丁寧にわ

かりやすく教えていただきました。文字は太い線で書き、顔は丸く描くことがポイントです。参加者の皆さんも実際に書いてみて、書きあがった作品を見せ合いました。同じ書き方を教えていただきましたが、それぞれ個性が出ていて、皆さんは自然に満面の笑顔になっていました。大きな笑顔と「ありがとう」というメッセージが心に響く作品となったと思います。

近年は、便利なPC・携帯電話・スマートフォンの普及により筆やペンで手書きの文字を書く機会が少なくなっていますが、手書きのお手紙やメッセージカードをいただくと嬉しい気持ちになります。手書きだからこそ伝わる温かさやメッセージはあると思うので機会があれば、笑い文字を書いて「感謝」と「喜び」を伝えてみたいです。

(子育て支援部)

### 歴史探索

## ぐるりわがまち

### 西尾張部区

### 尾張城跡

古牧郷土史研究会 村田 修一

尾張城跡は、長野市城犀川以北に浅川扇状地遺跡群、小島柳原遺跡群、裾花川扇状地遺跡群、長野遺跡群、安茂里遺跡群という大きな五

つの遺跡群が存在し、裾花川の旧流域によって形成された広大な裾花川扇状地遺跡群の末端に位置する遺跡です。尾張城跡は中世城館

であります。その下層から平安時代の住居址や古墳時代初頭の住居址が発掘されており、この地域の開発が今から1800年前の弥生時代後期にまでさかのぼります。「長野県町村誌」という文献に天正年間「尾張備中」が居住していたとされまた、万延元年頃の「科野佐々礼石」という文献には、「尾張部三郎」がここに居館して、当所一村を支配していたが、永禄のはじめ



武田氏に降伏してこの城館を引き払ったとされている。城の形は、3つの外堀

と本丸・二の丸・内濠を巡らした「馬出し回字形」と呼ばれる形態であった。古墳時代からすでにこの場所は、後の尾張城跡同様、自然地形を巧みに利用して、防御機能を備えた村が展開していた事が解っています。



「部」というのは、古代大豪族尾張氏の部下を意味し善光寺平中最も早く開けた場所といえとされています。

## 娑婆鉛筆

しやばえんぴつ

## 一生懸命楽しむ

次男が昨年10月頃にバスケットをやりたいと言いだし、それから家族に色々変化が起きましたので紹介します。

早速、地域のミニバスケットボール(以下ミニバス)教室に入部しました。毎週土曜日の練習が待ち遠しいようです。私が育った地域にはミニバス教室という習い事はありませんでしたが、長野市には各地に男女ミニバス教室があり、とても真剣にバスケット取り組み、礼儀などの教育もしっかりされています。

家でもバスケットをしたいとのことで、簡易的なバスケットゴールも入手しました。また家族で初めて信州ブレイブウォリアーズの試合を観に行ったり、懐かしの漫画スラムダンクをもう一度読み直したりと、親子共々バスケットに魅了されていく日々を過ごしています。

さらに、スポーツ選手の話にも関心が向くようになり、先日はテレビで大谷翔平の特集を見ました。大谷選手は子どもの頃に、3つのポイントを父親から教えられていました。

一生懸命に声を出す

一生懸命にキャッチボールをする

一生懸命に走る

失敗しても常に一生懸命に楽しむことが、大活躍の背景にありました。

いつも子供には細かいことを言いがちですが、取り組む姿勢の大切さを伝えていきたいと思いました。息子が何か打ち込んでいる姿はうれしい限りです。このバスケット熱が続く限り、応援していきたいです。(山田 啓子)

## 2月から3月までの主な行事実施日のお知らせ → 回覧等でお知らせします。



### 古牧地区の世帯数と人口

令和4年1月1日現在

11,730世帯

26,688人

(男 13,159人)

女 13,529人)

■発行所 古牧地区住民自治協議会  
(電話259-8359・FAX219-1057)  
(E-mail:komaki@vivid.ocn.ne.jp)

■発行者 児嶋 孝  
■編集 ぷらネットこまき編集委員会  
■印刷 SR



HP  
ご覧ください